別紙

令和５年度　学力向上プラン

学校名　　中央区立晴海中　　学校

学校の教育目標

個人の尊厳を重んじ、平和で民主的な国家及び社会の形成者としてふさわしい、心身ともに健康で、豊かな人間性・確かな学力・創造性を備えた生徒の育成を目指す。そのために本校の教育理念として「共生」を掲げ、以下の目標を設定する。
教育理念　共生　LIVE TOGETHER MAKE A COMMUNITY
教育目標　○健やかな人　○思いやる人　○考える人　○創造する人

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

・生徒一人一人に応じた指導の充実　・学習意欲の向上と学習習慣の定着　・質問教室等を活用した学習機会の充実
・ＩＣＴの活用と情報教育の推進　・国際性を育む教育の推進

令和５年度「学習力サポートテスト」や令和５年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国　語	校内平均正答率は72.4％で全国平均正答率より6ポイント高い。1年生では、「漢字の読み書き」正答率65％、他の問題に比べて低い傾向が見られた。2年生では、「文法・語句」の57％、「説明的文章」が低く課題が見られた。3年生では「書くこと」の分野が課題として挙げられる。	１年生は、文章で中心的な部分の読み取りがまだできていないと考える。2年生では、古語の意味と内容理解が主な要因であると考える。3年生では読み取った内容をまとめることや要点を捉える練習が必要である。
算数・数学	校内平均正答率は52.7％で、全国正答率53.4％を0.7ポイント下回っているが大きな差は見られない。しかし、データの活用に関する内容が36.0％と、全国44.9を大きく下回っている。このことから、データの活用の領域に対して苦手意識をもっている生徒や理解できていない生徒が多いことが課題として挙げられる。	データの活用の「相対度数」「ヒストグラム」「度数分布表」などに関する知識・理解が定着しておらず、それに伴い思考・判断・表現の定着もできていない。
社　会	校内平均正答率は38.9％で、全国正答率45.0％を6.1 ポイント下回っている。統計資料、地図資料の読み取りにおいて、正答率が低くなる傾向が見られるほか、1学年の1学期に行った単元の理解力が乏しいことが課題として挙げられる。 統計資料や地図資料の読み取りを重点的に行い、次回調査までに４３％の正答率を目標とする。	小学校段階からの知識の引継ぎが上手くいっていないことが上げられるほか、統計資料の読み取りに対して、生徒への適切な指導が行われていない。
理　科	校内平均正答率は46.0％で、全国平均正答率は55.1％を9.1ポイント下回っている。光の性質、火山、地層において、正答率が低くなる傾向がみられる。物理分野・地学分野に関連する単元において苦手意識をもっている生徒や理解できていない生徒が多いことが課題として挙げられる。	実物として捉えにくい、音や光、力の部分では、思考力や捉え方を養うことができなかった。また、火山・地層においては、基本的な知識を定着させることができず、思考・判断・表現も定着できていない。
英　語	３年生では、情報に基づいて書く英作文において無解答率が2ポイント下がった。また、与えられた情報に基づいて解答しているが、軽微な誤りがある準正答が36.6％、また、与えられた情報に基づいて解答しているが、3 単現の誤りがある誤答が6％見られた。	書くことや記述を苦手とする生徒がいるため、授業でのより充実した活動が求められている。基礎知識を理解した上で ALT を活用し、自分の考えや意見などを書いてまとめる場面を授業内で充実させる必要がある。
体育・保健体育	調査結果から男女全学年東京都平均より1.2％以上を上回っているが「持久力・筋持久力」を必要とする種目が低い傾向にある。男女とも共通した結果から、継続的に運動に親しむことができるような環境を整えることが課題としてあげられる。	運動部の部活動への所属人数の割合が少なくなっている。また、帰宅後など日常の運動機会の減少が主な要因と考える。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	漢字・語彙の定着など基礎・基本となる言語事項の正答率は70%を目標とする。
	算数･数学	データの活用領域の指導において、知識・技能の定着を図るために、小テストやドリルパークを活用し、全国平均率を上回ることを目標にする。
	社会	学習してから時間が経過した範囲における、知識の保持を促す。進級した際に知識量が低下することを防ぐために、小テストによる習熟度チェックで無回答を５%以下にすることを目標にする。
	理科	各単元において、イメージを具体的に捉えることができるよう、図や動画を用いた指導を充実させ、全国平均を上回ることを目標にする。
	英語	4技能の底上げと、長文読解能力の向上を目標とする。また、会話の機会を増やし、スピーキング能力の向上も図る。またライティングでは無回答を５%を目標にする。
	体育・保健体育	体力測定の結果において、全体を下げず、握力は東京都平均以上目標とする。
②授業改善		マークシート方式の生徒アンケート、「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や授業評価等に基づく授業改善を行い、全教科で都の平均を上回ることを目標とする。
③家庭との連携		家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、「生徒の学習に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの各種データとクロスチェックの上、課題を明らかにする。また、個々の生徒のプロフィールを把握した上で適切な指導・助言を行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。 学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”“ややあてはまる”の合計が８５%を越えることを目標とする。
④体力向上		新体力テストでは、全学年全国Ｔスコア５０を目標とし、平均を超える取り組みとして、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。運動会、連合陸上、体育的行事との取組に関連付けて、生徒の体力向上の意識を高めていく。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	1年生は読解の段階で、語彙の理解や前後の文のつながりを丁寧に読み取らせる。2年生は古典を身近に感じられるように、映像資料の活用、古語の意味を現代語と比較させるなど興味を持たせていく。3年生は文章中の要点を捉え、分割して要点をまとめるなど、段階的に練習をしていく。
算数・数学	授業内で定期的に小テストを実施したり、ベーシックドリルに取り組ませることで、知識・技能の定着を図るとともに、パワーアップドリルに取り組ませることで、思考・判断・表現の育成を図る。
社会	単元終了時点で単元テスト、もしくは思考力の養成に寄与できる課題を実施する。3年間を通した社会科の見方・考え方を生徒に明確に伝えることで、継続的な知識の定着を図る。
理科	イメージを具体的に捉えることができるよう、図や動画を用いた指導を充実させ、手を動かして理解させる機会を多く設ける。また、問題集などを活用して思考・判断・表現の育成を図る。
英語	授業において4技能を全て扱うプランを意識する。また、単元テストやパフォーマンステストを行って、読解力やスピーキング能力を高める。さらに、即興的でのライティング活動やディクテーション活動による書く力の向上も図る。
体育・保健体育	新体力テストでは、全学年全国平均以上を目標とし、授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行う。

②授業改善	
取組Ⅰ	・新学習指導要領を踏まえた年間計画を通して、教科横断的・縦断的な教育計画を見直す。 ・各教科で学習した内容が他教科の学習に生かせるような横断的な取組を強化する。
取組Ⅱ	・確かな学力を身に付けさせるために、各教科で基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るとともに、それを幅広く活用させる学習を通して、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・５教科については、各授業、朝学習において基礎基本の定着となる取り組みを行う。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	・家庭学習の習慣を定着させるために、適切な学習課題を工夫し、関する家庭への啓発を継続して進める。 ・「個人カルテ」をもとに、三者面談を行い、家庭との連携を深め、生徒一人一人に応じた指導・助言を行う。
取組Ⅱ	・毎日、取り組んでいるディリーライフや学校だより、学年通信や子ども安全安心メールを通して、家庭との連絡を密にし、学校で行われている教育活動を密に伝える。 ・運動会、文化祭の案内や、PTA バレーボールの参加を通じて学校への理解を深める。

④体力向上	
取組Ⅰ	・授業の導入時、準備運動、補強運動、整理運動を各単元の特性に合わせて行い、生徒の基本的な運動能力の向上を行う。
取組Ⅱ	・昼休みに主体的に活動するための校庭・体育館の開放。委員会活動における運動の活動や学年ごと行うスポーツ大会を通して、運動に親しむ態度を育む。

【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	基礎学力の定着を図り、各学年定期的に漢字小テストやまとめテストなど反復学習を行うことによって定着してきた。また、各単元において内容を捉える読みの指導を重点的に行うことで、主体的に読む力を育むことができた。	説明的文章（論説文）の長文の読解に課題がある。教科書の説明的文章に取り組む際に、構成や要旨等丁寧に読み取りをしていくことに重点をおいて取り組みを行っていく。また、思考力・表現力を高めるために言語活動の充実を図り授業改善を行う。
	算数・数学	ドリルパークに取り組むことで、実際に定期考査の結果につながった生徒が多く、学年が上がり内容が難しくなったにも関わらず、定期考査の知識技能の得点が昨年度から0.09ポイント上昇した。その結果、思考力・判断力・表現力等を育む授業において多くの生徒が積極的に取り組むことができていた。	確率の指導において、知識・技能の定着は現段階ではできており、小テストの結果からも基礎基本は理解できていることが分かった。しかし、別領域の内容を経た後では理解度に差が出てしまっている。今後は生徒に統計分野における基礎基本を定着させ、そこから思考力・判断力・表現力等を高めていけるような授業の工夫をしていく。
	社会	校内平均正答率における大きな変化は見られなかったが、目的としていた統計資料、地図資料の読み取りについては、正答率が向上した。各学期の定期考査においても図表の読み取り能力は上昇しており、今後も授業中の施策を続けていく。	統計資料、図表資料の読み取りに関する技能向上においては、特にグラフ資料の読み取りに困難が見られる。授業中にグラフを読み取り、他者にブラインドで伝える課題を実施している。成果については来年度に再度検証する。
	理科	単元ごとに基礎の復習、定着に向けて演習を行った。また思考力の育成のために定期考査の後にはテスト直しレポートをさせ、自身で図を描き説明できるよう努めた。実験を多く取り入れ、思考力・考察力を高めた。	単元ごとに小テストを行うなどの基礎の定着は行ったが、分野によって得点にばらつきが生じた。 どの分野でも、思考力・考察力を高められるよう、レポートなどを充実化させる。
	英語	スピーキングテストに模した話し合い活動や即興的なライティングの演習を重点的に行った。その結果、３学年のスピーキングテストでは東京都の平均値を約６ポイント上回る成果を残した。	学年に応じた課題に対応することも重要だが、３学年を見通した計画をもう少し具体的に作成するべきだと感じた。来年度以降の英語科による課題としていきたい。
	体育・保健体育	単元ごとに補強運動と心肺機能向上に向けて運動量を増やすことで、基礎的な運動能力の向上が見られる。 また、多くの生徒が運動に親しむことが出来た。	単元に必要な知識・技能の習得や思考の場面、主体的な取組みの場面等、補強運動の導入を行うことで、授業時間の計画が重要となる。運動量と対話活動のバランスが課題となる。

②授業改善	マークシート方式の生徒アンケート、「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や授業評価等に基づく授業改善を行い、全教科で都の平均を上回ることを目標とする。	集約したアンケート結果を個人で確認するだけでなく、教科部会等で共有し、改善策を話し合う。また、主任教諭が若手教員に指導する参考資料とする。
③家庭との連携	学校評価において、「通知表を通して生徒の学力を観点別評価により、適切に行っている」の項目について、“あてはまる”・“ややあてはまる”の合計が８５％を越えることを目標とする。 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が多いので、「生徒の学習に関する意識調査」を行い、学習力サポートテストの各種データとクロスチェックの上、課題を明らかにする。また、個々の生徒のプロフィールを把握した上で適切な指導・助言を行い、生徒一人一人の学習意欲の向上を図る。	評定の分布に偏りが見られる教科は、生徒がより理解できる授業作りを目標とし、指導内容を充実させていく。 タブレットを活用し、家庭でも学習状況が把握しやすい環境を整える。生徒一人一人の知的好奇心を刺激する方法を模索するべく、三者面談などで生徒について保護者と情報共有する。
④体力向上	単元ごとに補強運動と心肺機能向上に向けて運動量を増やすことで、基礎的な運動能力の向上が見られる。	単元の授業計画が重要であり、運動量と対話活動のバランスが重要である。 スポーツ大会への参加には偏りがあり、多くの生徒が参加する種目の提案などが課題である。